



説教	権威ある者としてお教えになった	鈴木 攻平	1
教会の課題	福音宣教のための「分かち合い」・共助金庫	井上 一雄	2
新約聖書学への招待	マタイ27章19節の新しい訳 第3回	住谷 眞	3
旧日本基督教会の草創期—植村正久を中心に(10)	植村正久と近代朝鮮	崔 炳一	4
教会、この地とともに② 福岡城南教会	過去に目を閉ざす者は現在にも盲目となる	澤 正幸	5
大信仰問答 1	「大信仰問答」が出版されます！	澤 正幸	6
こいのにあ	函館相生教会牧師就職式	佐藤 誠	7
	新宮教会伝道師就職式	大川 治	7
コロナ禍の中で⑥	昼夜の祈りと窮地の希望	大石 周平	8
寄稿		加藤 正勝	8



## 権威ある者としてお教えになった

（マルコによる福音書 1章21-28節）

すず き こう へい  
鈴木 攻平

この福音書において、汚れた霊に取りつかれた男の救いの奇跡は、主イエスの本格的伝道活動の最初を飾るものとして記されている。主イエスは、これ以前に南の方のユダヤ地方で伝道されたが、それはあくまでも予備的準備段階のもので、選んだ弟子を伴った本格的伝道はこのように開始された。これから3年間、伝道の活動をされるわけだが、この出来事は主イエスのみわざは何であるかを明らかにするに相応しい奇跡となった。

主イエスは、弟子たちと一緒に安息日の礼拝を守るために会堂に行かれた。この日の礼拝で主イエスは会堂長の許しがあって説教された。聖書のどこを取り上げられたかは分からないが、その説教は聴衆に驚きを与えた。聖書には、「非常に驚いた」とあるが、衝撃を与えたという意味である。その権威が示されたのである。

それでは、どのようにして権威のあることが示されたのであろうか。まず言えることは語られたことと行っていることが完全に一致していたことである。言葉に権威がなくなるのは、口先では立派なことを言いながら、実際していることはおかしなことであった時である。他人の批判をしながら、自分でも同じことをして信用を失う。その点、主イエスは完璧であった。

それでは、主イエスの教えの権威は、どこから来ているのであろうか。それが明らかになるときが来た。会衆の中に汚れた霊に取りつかれた男がいて、律法学者が説教したときには静かに聞いていたのに、主イエスが説教したときには、彼は、叫ばざる

をえなくなった。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」と。

この男は、主イエスのことを正確に認識していた。と言うよりは、彼に取りついていた汚れた霊がこの言葉を言わせたのである。聖書において「汚れた霊」とか「悪霊」とは罪の同義語である。この男は完全に罪のとりこになっていたのである。

汚れた霊は、聖なる神に対して敏感である。最も恐るべきは自分を滅ぼすことのできる唯一の方、聖なる神だからである。汚れた霊は、主イエスの権威は神の権威であることを言い表わした。汚れた霊にとりつかれた男は叫んだ。「ナザレのイエス、かまわないでくれ」と。しかし、主イエスはこの憐れむべき男から汚れた霊を追い出された。そのときに汚れた霊の言った言葉に注目しなければならない。「我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ」。これは全く正しい。確かに主イエスは神の聖者、神ご自身だからである。しかし、これは滅ぼされる者としての言い表わしである。これと対照的なのが、救われた者として言い表わしたペトロの信仰告白である。「あなたこそ神の聖者であると、わたしたちは信じ、また知っています」（ヨハネ6:69）。同じ言葉をどういう者として、どちらの立場で言い表わすのが重大である。主イエスはこの世の終わりに審判者として再びお出でになる。そのとき、わたしたちはどのように主イエスに向かって言うであろう。汚れた霊のようにか、ペテロのようにか。今、それが問われている。（近畿中会教師）